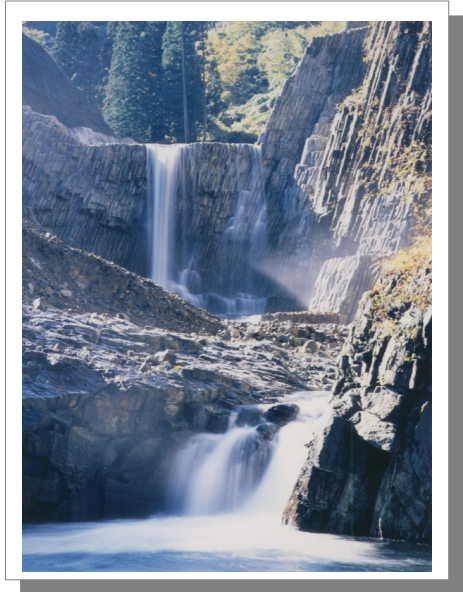


# 田代の七ツ釜

## 文部省指定名勝・天然記念物



## 田代の七ツ釜



七ツ釜を流れる釜川は、苗場山北方の釜ヶ峰・日陰山・小松原に源を発し、新期苗場火山噴出物の原面をおよそ400m下って、十日町市（旧中里村）倉俣で清津川と合流し、信濃川へと流れております。

文部省指定の名勝・天然記念物として知られている景勝地として有名なのは、清津川合流地点から6Km程さかのぼった標高420～370m地点の溪流に点在する七つの滝つぼです。

中里では釜と呼ばれ伝説の残る高さ21mの弁天滝をはじめ、北越雪譜にも載っている第3の滝「不動の滝」などもあり、古くから神秘的の地となっていたのかもしれませんが。左岸が切り立った縦層、右岸が断面層という学術的にも大変珍しい景観をご覧いただけます。

## 北越雪譜より



魚沼郡の宿場、十日町から南に七里ほどの妻在庄の山中（この辺はすべて、上妻在という）に田代という村がある。村から七、八町のところに、七ツ釜という場所がある。滝が七段あるので七ツ釜というのである。銚子の口や不動滝というのも七つの釜の中でその不思議な景はとてをかきつくせない。

野島出版刊「現代語訳北越雪譜」より



鈴木牧之の北越雪譜の中に文政3年辰7月2日に奇景を尋ねたと絵入りで紹介されており、今では柱状節理といわれる絶壁を「人がきちんと積み立てたようで少しの歪みもない。自然の巧の奇妙なことは不思議である」と書き記してあります。

残念ながら、平成7年の土砂災害により1番滝全体が崩壊しましたが、素晴らしい景色を後世に残すため、平成9年秋に日本初となる擬岩による砂防ダムが完成し、崩落前の一番滝に近い形で復元されました。

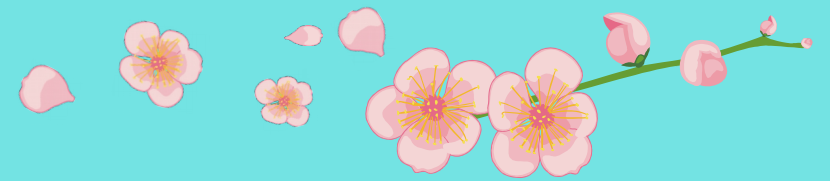
現在は展望台の駐車場に工事に使用した擬岩を用いた記念碑が建てられており、実際の滝を眼下に見下ろしながらどの部分が擬岩なのか探していただくのも楽しみのひとつです。

10月下旬～11月上旬が紅葉の見頃！  
なんと、紅葉時期に雪が降ったことも！

上野動物園の猿山やTDLのようなテーマパークでの擬岩からさらに進化した擬岩です。



# 田代の七ツ釜



## 田代の七ツ釜伝説



昔々、肝っ玉がふとい、鉄砲うちの豪傑がいました。

ある日、漁をしようと七ツ釜へ向かいました。昔から、大蛇の主が住んでいると言われ、めったに近づく人もありませんので、滝壺には魚がたくさんいます。

柱のような形をした岩がそそり立ち、大木がこんもりとかぶさって昼でも夕暮れのような七ツ釜の一番滝へ登って、そこに祀られている弁天堂に、「どうかひと綱だけ魚をさずけて下さい」とお願いし、綱を投げ入れると魚が山ほどかかりました！嬉しくて、約束したことを忘れ、無断でもう一度綱を投げ込むと、どうしたことが引きあげることができません。

これは七ツ釜の主のしわざに違いない。豪傑は鉄砲を持ち、滝壺めがけて、一発ド〜ン！急に、辺りは暗くなり、空が雲り嵐がきます。驚いていると、滝壺の中から、片目を撃たれた大蛇が現われました。あまりの恐ろしさに、一目散に逃げだしますが、大蛇追いかけて豪傑は亡くなってしまったそうです。

七ツ釜には竜神伝説もあり、日照りの時には七ツ釜の水をもらいに行くと、必ず雨が降ると信じられております。今でも水をもらいにくる人や、弁天堂をお参りに訪れる人がいます。



## 芸術祭作品

### スネークパス

作家：アン・グラハム〔オーストラリア〕

旧中里村の名勝「七ツ釜」に伝わる大蛇伝説からインスピレーションを感じたであろう、七ツ釜公園に出現した140mの大蛇は、地元小学校をはじめ、全国から参加者を募り、モザイク絵をデザインし、タイル貼りをおこない完成しております。

滝壺を象徴する7つの金属ボウルが設置されており、時折現れる大蛇の背を追いかけていくと、展望台には大蛇の顔があるのかもしれない…

## 田代神楽

### 市指定無形民俗文化財

今から150～160年前に東頸城地方から伝えられたといわれる田代神楽は、伝統芸能を守り、文化財を後世に伝えようという「田代神楽座」の人々に守られ、今でも舞い継がれています。



発行者：(一社)十日町市観光協会 中里事務所  
025-763-3168

十日町市観光協会

検索

<http://www.tokamachishikankou.jp/>